



京都教区90年、そのはじまり

— 祈りと決断、戦争の中で受け継がれた信仰 —

京都司教 十パウロ大塚喜直

第2回 メリノール宣教会、日本へ — ウォルシュ神父が見つめた「日出ずる国」—

第1回では、大阪教区のカスタニエ司教が、京都・滋賀に新たな宣教区域を設け、別の宣教会に委ねようとしていた構想をたどりしました。しかし、この時点では、まだその呼びかけに応える宣教会は決まっていませんでした。その願いは、やがて太平洋を越え、アメリカへ届くことになります。今回は、メリノール宣教会と、その共同創始者ジェームズ・アントニー・ウォルシュ神父 (James Anthony Walsh, M.M., 1867-1936、後に司教) に目を向けます。京都教区誕生への道は、日本の教会の願いと、アメリカで育まれた海外宣教への志とが出会うことによって、少しずつ現実へと近づいていきました。

メリノール宣教会の誕生

「メリノール (Maryknoll)」とは、「マリアの丘」を意味します。その名は、ニューヨーク州オシニング近郊の丘に置かれた本部に由来しています。1911年、ウォルシュ神父とトマス・フレデリック・プライス神父 (Thomas Frederick Price, M.M.) は、アメリカの教会も海外宣教の使命を担うべきだとの願いから、メリノール宣教会を創立しました。それまで宣教師を迎える側だったアメリカの教会が、自ら宣教師を送り出すようになったのです。初代総長となっ

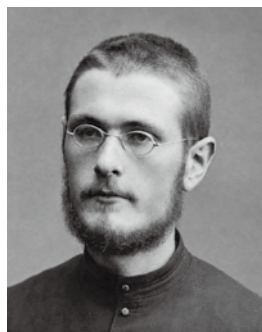


メリノール宣教会
共同創始者
ジェームズ・アントニー・
ウォルシュ神父

たウォルシュ神父は、会員たちを中国、韓国、満州などへ派遣しました。しかし、日本本土での宣教は、まだ開かれていない新しい扉でした。

ウォルシュ神父と日本との出会い

ウォルシュ神父が日本へ心に向ける契機の一つとなったのは、パリ外国宣教会のジャン＝バティスト・ジョゼフ・デフレンヌ神父 (Jean-Baptiste Joseph Deffrennes, M.E.P., 1870-1958) との出会いでした。1917年10月12日、最初の東洋視察旅行で福島を訪れたウォルシュ神父は、デフレンヌ神父のもとに宿泊し、日本における宣教の現状について語り合いました。その折、日本、すなわち「日出ずる国」へ宣教師を送るよう勧められたと伝えられています。この出会いは、ウォルシュ神父の心に、日本への深い関心を刻みました。



パリ外国宣教会
ジャン＝バティスト・
ジョゼフ・デフレンヌ
神父
写真：パリ外国宣教会
史料研究所 (IRFA)

京都・滋賀への道

1929年、計画は大きく動き始めます。東京に立ち寄ったウォルシュ神父は、後に駐日教皇使節となるエドワード・アロイスウス・ムーニー大司教と会見しました。日本の教会の事情について助言を受ける中で、ウォルシュ神父は、メリノール宣教



第3代中日教皇使節
エドワード・ムーニー
大司教
写真：デトロイト大司教区
公式報道機関
Detroit Catholic

会に託される使命を見いだそうとしました。ムーニー大司教は、同会にふさわしい宣教区域を日本国内で探すことを約束します。その後、カスタンエ大阪教区司教との協議を経て、新たな宣教地として示されたのが、京都と滋賀でした。古都・京都と琵琶湖を抱く滋賀。長い歴史と豊かな文化、深い宗教的伝統をもつこ

の地域が、メリノール宣教会の新たな宣教地として浮かび上がりました。こうして、ニューヨークの「マリアの丘」から、太平洋を越えて京都・滋賀へ向かう道が少しずつ輪郭を現します。まだ互いをほとんど知らなかったアメリカの宣教会と日本の古都が、神の導きのうちに静かに結ばれようとしていました。この歩みは、1937年の京都使徒座知牧区（Apostolic Prefecture of Kyoto）の設立、1939年の奈良県・三重県の編入を経て、後の京都教区への礎となりました。

宣教は、出会いと識別から始まる

宣教は、宣教師が現地に到着したときに初めて始まるものではありません。地域の必要に耳を傾け、託された使命を祈りのうちに識別するところから始まります。宣教師は、神のおられない場所へ神を運ぶのではなく、すでにその土地の人々の暮らしや喜び、悲しみのうちに働いておられる神に出会い、そのみ業にともに仕えるために遣わされるのです。ウォルシュ神父も、多くの人との出会いと対話を重ねながら、日本へと招く神の呼びかけを一步步ずつ確かめていきました。

神が備えておられた道

京都教区の歩みは、一人の宣教師や一つの宣教会の働きだけによって始まったものではありません。さまざまな人々が神の導

きに応え、それぞれに託された役割を担い、力を合わせるなかで、宣教の道は少しずつ開かれていきました。京都教区の原点に息づくこの協働の精神は、今日、私たちが進める共同宣教司牧にも受け継がれています。それぞれが自らの召命と賜物を生かし、地域や世代の違いを越えて互いの声に耳を傾け、支え合いながら、神が今も備えておられる道を共に見いだしていくことが求められています。

次回は、メリノール宣教会が日本派遣を正式に決断し、最初の宣教師たちが期待と不安を胸に太平洋を渡るまでの歩みをたどります。



ニューヨーク州オシニングの丘の上にある
石造りのメリノール神学校とアジア風の野原



メリノール会の紋章

写真の出典の表記がないものについては
メリノール宣教会アーカイブより